

**序章 開港以前の3国**

- 1節 3国の相互関係
- 2節 3国の国内状況
  - 1 日本——武士と民衆
  - 2 朝鮮——両班と民衆
  - 3 中国——清朝と民衆

**I章 開港と近代化**

- 1節 欧米列強の圧力と3国の対応
  - 1 中国——アヘン戦争と洋務運動
  - 2 日本——開国と明治維新
  - 3 朝鮮——開国拒否の戦争と譲歩
- 2節 東アジアを巻き込んだ戦争
  - 1 3国の争い
  - 2 日清戦争
  - 3 日露戦争
- 3節 3国の改革運動
  - 1 日本——自由民権運動
  - 2 中国——清朝の改革と義和団運動
  - 3 朝鮮——農民戦争と独立協会運動
- 4節 3国民衆の生活と文化
  - 1 朝鮮社会の変化と民衆
  - 2 中国社会の変化と民衆
  - 3 日本社会の変化と民衆

**II章 「大日本帝国」の膨張と中韓両国の抵抗**

- 1節 第一次世界大戦前後の3国関係
    - 1 日本の韓国併合と朝鮮人の抵抗
    - 2 日本の台湾支配
    - 3 辛亥革命と中華民国の成立
    - 4 第一次世界大戦とその後の世界
  - 2節 日本の朝鮮支配
    - 1 憲兵警察統治
    - 2 "文化政治"の実態
    - 3 経済政策と収奪
    - 4 教育・文化政策
- コラム 二つの顔をした鉄道／東洋拓殖会社
- 3節 独立・抵抗の運動と社会運動
    - 1 三・一運動
    - 2 五・四運動
    - 3 3国の社会運動
  - 4節 変わりゆく社会と文化
    - 1 朝鮮の社会と文化の変化
    - 2 中国の社会と文化の変化
    - 3 日本の社会と文化の変化
    - 4 関東大震災と日本在住の朝鮮人・中国人

**III章 侵略戦争と民衆の被害**

- 1節 日本の中国東北地方への侵略
  - 1 九・一八事変(満州事変)
  - 2 「満洲国」傀儡政権の出現
  - 3 「満洲国」の社会と経済
  - 4 東北人民の反満抗日闘争

- 2節 日本の侵略戦争
  - 1 日中全面戦争
  - 2 アジア太平洋戦争
  - 3 「大東亜共栄圏」のまぼろし
  - 4 総力戦体制
- 3節 日本軍による中国民衆への残虐行為
  - 1 戦場における民衆と難民
  - 2 南京大虐殺
  - 3 無差別爆撃・三光作戦と「無人区」
  - 4 細菌戦・毒ガス戦と人体実験
  - 5 日本軍の性暴力
- 4節 朝鮮の戦争基地化と民衆の被害
  - 1 皇民化政策
  - 2 戦時体制化の軍需工業
  - 3 戦争物資動員
  - 4 強制動員(人力動員)
  - 5 日本軍慰安婦として連行された朝鮮女性たち
- 5節 日本民衆の加害と被害
  - 1 戦時総動員と民衆の戦争協力
  - 2 民衆の生活と抵抗
  - 3 東京大空襲と都市空襲
  - 4 沖縄戦
  - 5 広島・長崎への原爆投下
- 6節 日本の侵略戦争の失敗
  - 1 中国の抗日戦争
  - 2 朝鮮人の抵抗と建国準備
  - 3 東南アジア占領地民衆の抵抗
  - 4 反ファシズム戦争の勝利と日本の降伏

**IV章 第二次大戦後の東アジア**

- 1節 3国の新しい出発
  - 1 日本の敗戦と戦後改革
  - 2 朝鮮の解放と分断
  - 3 中華人民共和国の成立
- 2節 問われる日本の過去の「清算」
  - 1 東京裁判
  - 2 サンフランシスコ講和条約と賠償・補償問題
  - 3 植民地支配と戦争が残した社会問題
- 3節 東アジアの分断と国交正常化
  - 1 東アジアの冷戦と朝鮮戦争
  - 2 日韓国交樹立
  - 3 日中国交正常化
  - 4 韓中国交の樹立

**終章 東アジアの平和と友好を求めて**

- 1 対日賠償と補償問題
- 2 日本軍「慰安婦」問題と女性人権運動
- 3 過去をどう記憶するか(1) 歴史教科書問題
- 4 過去をどう記憶するか(2) 靖国神社問題
- 5 東アジア三国青少年の交流
- 6 反戦平和運動と市民運動
- 7 東アジアの和解と平和のために

**この本の5つの特徴**

**1 東アジアの過去の葛藤・対立を未来に向けて超えるための初めての試み**

19世紀半ばの開港・近代化への出発から、日本の侵略・戦争を経て現在までの東アジア3国の近現代史を扱い、未来への課題を展望しています。

**2 開かれた視野から歴史を見、3国それぞれの立場を尊重した歴史叙述を提示**

狭いナショナリズムにとらわれた自国中心の閉鎖的な歴史認識に対し、3国の国内状況と相互関係に目配りをした歴史叙述を提示しています。

**3 多様な視点を取り入れ、共存の未来への歴史叙述を提示**

女性、少数者、民衆などの視点を出来るだけ取り入れ、権力者・強者の一面的視点からの歴史叙述を克服しようとしています。

**4 日・中・韓3国のメンバーが共同で編集し、各国の言語で同時に刊行する歴史的な作品**

日韓など2国間の取り組みは、これまでもありました。しかし、日中韓の3国で共同編集し、分担執筆して一つの本にまとめ上げるのは、この本が初めてです。

**5 読みやすい叙述、わかりやすい内容、豊富な写真・図版**

見開き2ページを基本として、問題を投げかけながら、3国の近現代史をわかりやすく伝えます。中学生から大人まで興味をもって読み、考えることのできる内容です。

**この本が出来るまで**

▼2001年春、「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書が出現し、日本だけでなく中国、韓国でも強い反対運動が起こりました。その中から、たんに批判するだけでなく、共有すべき歴史認識の構築が必要だという声生まれ、日中韓3国の研究者、教師、市民によって2002年3月、第1回「歴史認識と東アジアの平和フォーラム」が中国・南京で開かれました(第2回は03年2月に東京、第3回は04年8月にソウルで)。

▼このフォーラムの中で3国共通の歴史教材を共同で作ることが話し合われ、各国にそのための委員会が組織されました。その第1回国際会議を02年8月にソウルで開催、以後05年1月の東京での第10回国際会議まで、日本で4回、中国、韓国で各3回の国際会議を重ねて、ついに実現にこぎつけたのです。

